

## 広報ただみ診療所

退任の挨拶

朝日診療所 医師 **もり 森** **ふゆと 冬人**



2015年春に朝日診療所へ赴任して7年6ヶ月。このたび診療所から異動する事になりました。2011年、学生実習の際に只見町に滞在してから、かれこれ10年以上の縁になります。

今思えば、赴任した当初は医師としてまだまだ未熟でした。この只見の地で多くの貴重な経験ができました。保健福祉課、介護福祉施設、救急隊、その他多くの関係者から学ばせて頂きました。何よりも、様々な病気・障害を抱えながらも生活を営む町民の皆様から、たくさん学ばせて頂き、医師としても人としても成長することができました。2017年には只見での経験を生かして、日常の疾患の幅広い対応ができる「家庭医療専門医」を取得する事もできました。

2020年以降は、コロナ禍で医療・福祉関係者は特に大変な状況ではありました。町唯一の診療所として、予防接種や発熱外来の対応をさせて頂きました。大変な時期もありましたが、多くの町民の皆様の協力や、関係者の誠実な対応のおかげで、少なくとも他の市町村には劣らない対応ができた実感しております。役場と連携した、地域密着の診療所の利点を発揮できたと考えています。

診療所は小さな存在です。大病院と比べれば、外科手術も抗がん剤治療もできません。私たちの役割は、町民の皆さんが安心して生活できる基本的な医療を提供することです。どうすればいいのか困ったとき、医療の世界の相談役として役に立てるようにできる限り頑張ってきました。「私の寿命まで診療所にいて下さい」と多くの人生の先輩方に声をかけて頂いたのも大変ありがたかったです。

10月以降も非常勤ではありますが、朝日診療所の外来をお手伝いさせて頂きます。乳幼児の予防接種から100歳の方の認知症まで、年齢性別・相談内容を問わず幅広く多様な相談に対応できる医師として、これからも研鑽を積みしたいと思います。そして町外からも只見町の魅力を伝えて、陰ながら皆様を応援いたします。これまで本当にありがとうございました。そして、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

## 地域おこし協力隊として Vol.94

只見町教育振興協力隊 **おち 越智 めぐみ**



2020年の11月に只見町に来て、只見高校生を対象とした公営塾の仕事を始めてから、間もなく2年が経ちます。初めて只見町に来たときはまだ初々しさの残る1年生だった高校生たちはもう3年生。数学の三角比を理解しようと必死だった生徒たちがそれぞれの進路に向き合っているのを見ると、時が過ぎるのはあっという間だとしみじみ感じます。

あっという間の2年間でしたが、只見高校生の甲子園出場や、ただみモノとくらしのミュージアムの開館、只見線の再開など、町の歴史が動く運命的な瞬間を目の当たりにできたことを幸せに思います。

さて、心志塾では高校生を対象に、様々なイベントを新しく導入してきました。「森林の分校ふざわ」での勉強合宿や、只見の自然について学ぶ「ヒメサユリを探す会」、町のALTの先生を塾に招いて実施した「異文化交流会」などです。特に勉強合宿は宿泊を伴うイベントだったため、感染防止対策に細心の注意を払いながら実施しました。自然に囲まれた場所で、高校生の体の一部と言っても過言ではないスマホを講師に預け、長時間ひたすら勉強する。まるで進学校のようなイベントでしたが、若さのパワーはすごいですね。みんな笑顔で難なく乗り切っていました。

また、高校生だけでなく、サマースクールやウィンタースクール、中学準備講座や高校準備講座などの企画・運営で、小学生や中学生の皆さんとも関わる機会が増えてきました。元気いっぱい、笑顔満開のパワフルな小学生や、真剣な表情で勉強に向き合う中学生の皆さんと接していると、只見町にくらす子どもたちの可能性を広げるために、もっともっと色々なことができるのではないかという思いが生まれてきました。

その思いを実現するため、引き続き様々なことにチャレンジしていきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。